

安 全 デ ー タ シ ー ト (SDS)

作成 1999年10月26日
最終改訂 2022年4月7日

1.【化学物質等及び会社情報】

製品	製品の名称	アルタン プレミアム-R
供給者情報	会社名	アルタン株式会社
	住所	東京都大田区東糞谷3-11-10 マーケティング室 開発企画課
	電話番号	03-3743-5705
	FAX番号	03-3743-5706
	緊急連絡先	同上

2.【危険有害性の要約】

GHS分類	
物理化学的危険性	
エアゾール	区分1
健康に対する有害性	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用、気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類できない」又は「区分に該当しない」である。

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール
 高压容器:熱すると破裂のおそれ
 眼刺激
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気やめまいのおそれ
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害
 長期にわたる又は反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き 【安全対策】

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
 火花を発生しない工具を使用すること。
 使用前に取扱説明書入手すること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
 ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 容器を密閉しておくこと。
 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

【救急処置】

火災の場合には、消火に炭酸ガス、泡、噴霧水を使用すること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して
 いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚(または髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水
 で洗うこと。
 曝露または曝露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。
 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS 分類に該当しない他の危険性

分類 高圧ガス(可燃性ガス)、引火性液体。
 危険性 可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。
 有害性 非常に燃えやすい液体である。高濃度の気体を吸入すると、弱い麻酔性のため一時的に
 神経系の機能低下を生じる恐れがある。又、液状のガスが皮膚に触れると凍傷を生じる恐
 れがある。

3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物
 成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法	PRTR法
エタノール	65～75%	64-17-5	(2)-202	通知対象物質	非該当
グリセリン脂肪酸エステル	1%未満	—	—	通知対象外物質	非該当
グリセリン	1%未満	56-81-5	(2)-242	通知対象外物質	非該当
精製水	20～30%	7732-18-5	—	通知対象外物質	非該当
プロパン	1～5%	74-98-5	(2)-3	通知対象外物質	非該当
ノルマルブタン	1～5%	106-97-8	(2)-4	通知対象物質	非該当
イソブタン	1～5%	75-28-5	(2)-4	通知対象物質	非該当
窒素	1%未満	7727-37-9	—	通知対象外物質	非該当

4.【応急処置】

以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること。

目に入った場合 噴射したガスやミスト、泡沫等が眼に入った場合、清浄な水で数分間注意深く
 洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
 その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。眼が開けられな
 ない場合、無理にあげさせない。
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
 できるだけ速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 乾いた布等で拭き取った後、石鹼水でよく洗う。
 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。多量の水と石鹼で皮膚の溶剤がついた
 部分を十分に洗い流す。
 溶剤、シンナーは使用しないこと。
 ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水ま
 たは温水で洗い流す。

吸入した場合 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か
 止まっている場合には人工呼吸を行う。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 直ちに医師の診断を受けること。
 蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静
 にし、医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合 誤って飲み込んだ場合には、水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断
 を受けること。揮発性の高い物質を含んでいる為、無理に吐かせるとかえって
 危険な場合がある(化学性肺炎を引き起こす可能性がある)。

自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
 予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状
 眼刺激
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気やめまいのおそれ
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害
 長期にわたる又は反復ばく露による神経の障害のおそれ
 応急措置をする者の保護
 換気を行う。
 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
 医師に対する特別な注意事項
 情報なし

5.【火災時の措置】

消火剤 泡、散水又は噴霧水、炭酸ガス
 使用してはならない消火剤 棒状注水
 火災時特有の危険有害性 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
 極めて燃えやすい、熱、火花、火炎で容易に発火する。
 火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
 引火性の高いガス、液体及び蒸気。
 特有の消火方法 直ちに消火器等で消火する。
 指定の消火器を使用すること。
 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。
 可能であれば、エアゾール容器を火元から遠ざける。
 移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。
 速やかに避難し、関係者以外は立ち入り禁止とする。
 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。
 消火活動は十分距離をとって、風上から行う。
 有毒なガス(CO、NO_x、SO_x等「10. 安定性及び反応性」参照)の吸入を避ける。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 消火を行う者の保護 消火者は必ず適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項・保護具及び緊急措置
 ばく露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。
 眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
 密閉された場所に入るときは換気する。
 漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。
 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。
 環境に対する注意事項
 河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 封じ込め及び浄化の方法及び器材
 乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で処理する。(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる)
 衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
 蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。
 付着物、廃棄物などは関係法規に従い処理すること。
 二次災害の防止策
 浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。
 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
 火花を発生しない工具を使用する。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策 静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性の物を使用する。取り扱い場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。工具は火花防止型の物を使用する。

局所排気・全体換気

換気のよい場所で取り扱う。
取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱うこと。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。

安全取扱注意事項

すべての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わないこと。
使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する-禁煙。
火炎に向かって噴射してはならない。
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。
ミストを吸入しない。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。
休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。
この製品を取り扱う際に、飲食又は喫煙をしないこと。
混触禁止物質と接触しないように注意する。
環境へ放出を避けること。
接触回避 「10. 安定性及び反応性」を参照。
衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

保管

技術的対策 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
接触禁止物質 「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件 幼児の手の届かない所に置くこと。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること-禁煙。
40℃以上になる所には置かないこと。
混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。
容器包装材料 高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。
容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

8.【ばく露防止及び保護措置】

管理濃度	エタノール			設定なし
	ブタン			設定なし
許容濃度	エタノール	日本産衛学会		設定なし
		ACGIH	STEL	1,000ppm
	ブタン	日本産衛学会		500ppm, 1200mg/m ³
		ACGIH	STEL	1,000ppm

設備対策

取扱い設備は防爆型を使用する。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

保護具 呼吸器の保護 手の保護 目の保護 皮膚・身体の保護 適切な衛生対策	必要に応じて着用する。 有機ガス用防毒マスク、(密閉された場所では)送気マスク 保護手袋(不浸透性、耐薬品性) 保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面 保護衣(長袖、不浸透性、通電性)、通電性の靴、前掛け等(耐溶剤性) 保護具は清潔で有効なものを使用する。 取扱い後はよく手を洗うこと。 作業中は飲食、喫煙をしない。
--	--

9.【物理的及び化学的性質】

	内容液	噴射剤(LPG)	噴射剤(窒素ガス)
物理状態	液体	大気圧下 ガス状 圧力容器内 液状	気体
色	無色透明	無色透明	無色透明
臭い	特有の芳香	無臭	無臭
融点	データなし (エタノールは-114.5°C)	プロパン -189.7°C n-ブタン -138°C イソブタン -160°C	-209.9°C
沸点	79.9°C (101.325kPa)	プロパン -42°C n-ブタン -0.5°C イソブタン -12°C	-195.8°C
可燃性	データなし	データなし	データなし
爆発限界	データなし (エタノールは空気中で 3.3~19.0vol%)	プロパン 2.1~9.5vol% n-ブタン 1.8~8.4vol% イソブタン 1.8~8.4vol%	不燃性
引火点	データなし (エタノールは13°C)	プロパン -104°C n-ブタン -60°C イソブタン 引火性ガス	不燃性
自然発火点	データなし (エタノールは439°C)	プロパン 450°C n-ブタン 287°C イソブタン 460°C	不燃性
分解温度	データなし	データなし	データなし
pH	5.0~6.0	該当しない	該当しない
動粘性率	データなし	データなし	データなし
溶解度	水、エーテルによく解ける	プロパン 0.07g/100mL n-ブタン 0.006g/100mL イソブタン 不溶	1.52mL/100mL
n-オクタノール/ 水分配係数	データなし (エタノールは -0.30(logPow))	プロパン 2.36 (log Pow) n-ブタン 2.89 (log Pow) イソブタン 2.80 (log Pow)	データなし
蒸気圧	データなし (エタノールは 5,878Pa(20°C))	0.40 MPa(20°C)	データなし
密度	0.864(15°C/4°C)	0.545 (20°C)	0.967(空気=1,25°C, 0.1013MPa(1atm))
相対ガス密度	データなし (エタノールは1.59)	プロパン 1.6(空気=1) n-ブタン 2.1(空気=1) イソブタン 2.0(空気=1)	1.25kg/m3 (0°C,0.1013MPa(1atm))
粒子特性	データなし	データなし	データなし
その他	データなし	データなし	データなし

10.【安定性及び反応性】

反応性及び化学的安定性 危険有害反応可能性	40°C以上になると破裂の恐れがある。 常用温度で缶内圧は約0.55MPa。 静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。 高温の表面、火花又は裸火により発火する。 高圧ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険がある。 可燃性の液化ガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成し易い。車内で放出 すると窒息性及び酸欠になることがあるので、使用後は換気を十分に行うこ と。なお換気の際には、周囲に着火源の無いことを確認すること。 酸化性物質と激しく反応する。
--------------------------------------	--

避けるべき条件	<p>プロパン: 二酸化塩素と激しく爆発。 ブタン: ニッケルカルボニル+酸素との混合ガスは爆発を起こす。 内溶液: 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。衝突を避ける。 直射日光を避ける。 混触危険物質との接触を避ける。 静電気との接触。</p>
混触危険物質 危険有害な分解生成 その他の有害性情報	<p>酸化性物質 燃焼により有害なガス(一酸化炭素や窒素酸化物等)を発生する。 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。</p>

11.【有害性情報】 ※特に記載のない場合は製品としてのデータである。

急性毒性(経口)	<p>既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を6.860%含有。</p>
急性毒性(経皮)	<p>毒性未知成分が6.860%以上なので、区分外から分類できないに変更。 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を6.860%含有。</p>
急性毒性(吸入) ガス 蒸気	<p>毒性未知成分が6.860%以上なので、区分外から分類できないに変更。 GHS 定義による気体ではない。 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を6.860%含有。</p>
皮膚腐食性/刺激性 ミスト	<p>毒性未知成分が6.860%以上なので、区分外から分類できないに変更。 データ不足のため分類できない 加成型が適用できる成分からの判定: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を3.917%含有。 毒性未知成分が3.917%以上なので、区分外から分類できないに変更。</p>
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	<p>加成型が適用できる成分からの判定: 区分2B の成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分2B に該当。 エタノール: OECD TG405 のDraize test に従った試験により「moderate irritating」と評価されている。ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1,2 日間で回復する。 眼ラビット: 100mg/24h 症状(中度)</p>
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>加成型が適用できる成分からの判定: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分3 (麻酔作用、気道刺激性)に該当。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>加成型が適用できる成分からの判定: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分1(肝臓)および区分2(神経)に該当。</p>
誤えん有害性 その他の情報	<p>GHS 定義による固体、液体ではない。 情報なし</p>

12.【環境影響情報】

残留性/分解性(エタノールとして)		
理論酸素要求量		2.1mg/l
BOD ₅		0.93~1.67mg/L
COD		1.99~2.11mg/L
バクテリア硝化能の抑制		4,100mg/Lでニトロソモナス種のアンモニア酸化の50%抑制
生態毒性(エタノールとして)		
マスの幼魚	LC ₅₀	11.2g/l・24h

	コイの一種	LC ₅₀	18.0~13.4g/l・96h
	クリークチャブ	LC ₅₀	7g/l・24h
	グッピー	LC ₅₀	11g/L・7日
生態蓄積性	データなし		
土壤中の移動性	データなし		
水生環境急性有害性	加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3 が0%であり、濃度限界(25%)未満のため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を6.860%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。 方式1=データなし、方式2=データなし、方式3=分類できないより分類できないに該当。		
水生環境慢性有害性	加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3 が0%であり、濃度限界(25%)未満のため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を6.860%含有。 毒性未知成分を含有しているため-0.30(logPow) 方式1=データなし、方式2=データなし、方式3=分類できないより分類できないに該当。		
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない		
その他	現在のところ有用な情報はないが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意すること。		

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物、汚染容器・包装
 廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。
 許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理すること。
 中身が出なくなるまで使い切った後でも破裂する恐れがあるのでそのまま火中に投じないこと。
 関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。

14.【輸送上の注意】

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。
 輸送の特定の安全対策及び条件
 運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制

陸上輸送 消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
 海上輸送 船舶安全法に定めるところに従う
 海洋汚染物質 該当しない
 航空輸送 航空法に定めるところに従う。
 緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号
 126

国際規制

陸上輸送(ADR/RID の規定に従う)
 国連番号 1950
 品名 エアゾール
 国連分類 2
 容器等級 -
 海上輸送(IMO の規定に従う)
 国連番号 1950
 品名 エアゾール
 国連分類 2
 容器等級 -
 海洋汚染物質 該当しない
 IBC コード 該当しない
 航空輸送(ICAO/IATA の規定に従う)
 国連番号 1950
 品名 エアゾール
 国連分類 2
 容器等級 -

15.【適用法令】

労働安全衛生法	危険物・引火性のもの 危険物・可燃性のガス(プロパン、ブタン) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(該当しない) 名称等を表示すべき危険物及び有害物平成28年6月1日施行(ブタン) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(ブタン、アルコール) 有機溶剤中毒予防規則:該当しない
船舶安全法	高压ガス
航空法	高压ガス
高压ガス保安法	適用除外(液化ガス・可燃性ガス・圧縮ガス) 但し、政令告示並びに高压ガス保安一般規則規定に従う。
消防法	危険物 第4類 アルコール類 水溶性 危険等級Ⅱ
毒物及び劇物取締法	非該当

16.【その他の情報】

記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糀谷3-11-10
担当部門	マーケティング室
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

改訂履歴

作成	1999年10月26日
改訂	2005年3月31日
改訂	2006年1月10日
改訂	2010年10月18日
改訂	2012年6月12日
改訂	2016年3月15日
改訂	2016年9月12日
改訂	2021年6月10日
最終改訂	2022年4月7日

参考文献

原料MSDS
 液化石油ガスMSDS
 化学物質管理促進法対象物質全データ
 労働安全衛生法対象物質全データ
 毒物及び劇物取締法対象物質全データ (化学工業日報社)

注意

・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
 ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
 ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途、用法に適した安全対策を講じた上で実施してください。
 ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
 ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定してください。